

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
東京福祉専門学校	平成元年2月20日	小林 和弘	〒134-0088 東京都江戸川区西葛西5丁目10番32号 (電話)03-3804-1515																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話)03-5878-3311																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
教育・社会福祉	社会福祉専門課程	こども保育福祉科	平成26年1月28日 文部科学省告示第7号	-																							
学科の目的	児童福祉・幼児教育現場において、多様な子ども・家庭に合わせた支援・指導ができる保育士・幼稚園教諭になる。																										
認定年月日	平成27年2月17日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時間又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
	3年 昼間	2752時間	1540時間	450時間	469時間	0時間	0時間																				
総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		単位時間																				
240人	184人	1人	4人	30人	34人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験においてC評価以上を修了とする (A:80点以上、B:79点から70点、C:69点～60点、D:60点未満、E:出席日数不足〔授業時間数の10分の7に満たないもの〕。 実習は施設評価や実習日誌等も踏まえて上記評価をおこなう。																							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月9日 ■春季:3月12日～3月31日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	必須科目を全て履修																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任、学部長、カウンセラーとの定期面談の実施		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 保育園、幼稚園、知的障害児施設、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設、児童養護施設、一般企業等 ■就職指導内容 プロ養成講座での就職講座の実施(全体指導)と並行して、履歴書や採用面接に向けたサポート(個別支援) ■卒業者数: 59 人 ■就職希望者数: 58 人 ■就職者数: 58 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 98.3 % ■その他 ・進学者数: 1人		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に關する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>59人</td> <td>59人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td>①</td> <td>59人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>①</td> <td>59人</td> <td>59人</td> </tr> <tr> <td>JESC認定カウンセラー</td> <td>③</td> <td>59人</td> <td>59人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	保育士	①	59人	59人	幼稚園教諭二種免許	①	59人	50人	社会福祉主事任用資格	①	59人	59人	JESC認定カウンセラー	③	59人	59人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
保育士	①	59人	59人																								
幼稚園教諭二種免許	①	59人	50人																								
社会福祉主事任用資格	①	59人	59人																								
JESC認定カウンセラー	③	59人	59人																								
中途退学の現状	■中途退学者: 5名 ■中退率: 2.7 % 平成28年4月1日時点において、在学者185名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者180名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合(人間関係)・経済的問題・進路変更等		■中退防止・中退者支援のための取組 学生相談室にカウンセラーを配置し、相談できる体制を構築している。担任が学生とのコミュニケーションを積極的に図ること、授業出席状況や成績等から早期の問題発見をおこなっている。																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 兄弟姉妹学費一部免除制度・滋慶学園グループ卒業生入学免除制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 第三者評価修了 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	URL: http://www.tow.ac.jp/																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																																											
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 企業との連携については、「児童福祉・幼児教育現場において、多様な子ども・家庭に合わせた支援・指導ができる保育士・幼稚園教諭になる」という養成目的を踏まえて、企業等と直接に連携する科目についてはより良い内容となるように意見交換をする。また、企業等から業界の要望を聴取し、業界が求める人材を育成する視点に基づいてカリキュラムの内容を決定する。																																											
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 教育課程編成委員会は理事会のもとに設置され、理事及び学校長、教務部長、学部長と業界代表によって構成され、学校が編成した教育課程を、業界代表者からの意見や提案を活かせるようにする。委員会は改善意見を学校長に報告し、学校長は報告を活かした教育課程を決定し、委員会へ告知する。																																											
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成29年4月1日現在																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松本 信人</td> <td>社会福祉法人えどがわ 統括園長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>加藤 照美</td> <td>ミルキーウェイ亀戸園 園長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>浅村 都子</td> <td>臨床育児・保育研究会 委員</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>小林 和弘</td> <td>東京福祉専門学校 学校長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高橋 友深</td> <td>東京福祉専門学校 事務局長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>館脇 康郎</td> <td>東京福祉専門学校 教務部長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>福原 康久</td> <td>東京福祉専門学校 リハビリテーション学部長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>奥村 文司</td> <td>東京福祉専門学校 学生サービスセンター長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高野 大輔</td> <td>東京福祉専門学校 キャリアセンター長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				名前	所属	任期	種別	松本 信人	社会福祉法人えどがわ 統括園長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③	加藤 照美	ミルキーウェイ亀戸園 園長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③	浅村 都子	臨床育児・保育研究会 委員	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	①	小林 和弘	東京福祉専門学校 学校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)		高橋 友深	東京福祉専門学校 事務局長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)		館脇 康郎	東京福祉専門学校 教務部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)		福原 康久	東京福祉専門学校 リハビリテーション学部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)		奥村 文司	東京福祉専門学校 学生サービスセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)		高野 大輔	東京福祉専門学校 キャリアセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
名前	所属	任期	種別																																								
松本 信人	社会福祉法人えどがわ 統括園長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③																																								
加藤 照美	ミルキーウェイ亀戸園 園長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③																																								
浅村 都子	臨床育児・保育研究会 委員	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	①																																								
小林 和弘	東京福祉専門学校 学校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
高橋 友深	東京福祉専門学校 事務局長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
館脇 康郎	東京福祉専門学校 教務部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
福原 康久	東京福祉専門学校 リハビリテーション学部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
奥村 文司	東京福祉専門学校 学生サービスセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
高野 大輔	東京福祉専門学校 キャリアセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)																																									
<p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>																																											
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期																																											
(開催日時) 第1回 平成29年3月5日 13:00～15:00 第2回 平成29年9月1日 15:00～17:00																																											
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 学生の主体性を持って学ぶ力が必要で、そのために特別授業や業界との教育提携授業など体験型授業を実施している。 ⇒それによって、教育内容がどのように変わっていくのか、現場が求めるイメージと共有して欲しい。																																											
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係																																											
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 保育士・幼稚園教諭養成のために不可欠な保育実習において、実習の到達目標と指導内容を事前に企業等と学校で相互理解を図る。これを基に学内にて実習開始前と終了後の実習指導において学生に教育を実施する。																																											
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 実際に保育現場で活躍している実習指導者による技術指導を通して、学内では学べない知識、技術を学生自ら修得できるよう連携を図る。また、適宜行う実習巡回指導でも実習担当者と教職員が学生状況を把握し適切な指導にあたる。																																											
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育実習Ⅰ</td> <td>子どもとの関わりや観察を通して子どもへの理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</td> <td>葛西第二おひさま保育園、東葛西保育園、葛西おひさま保育園、北葛西おひさま保育園、ローゼンかみやま保育園 等</td> </tr> <tr> <td>保育実習Ⅱ</td> <td>居宅型児童福祉施設及び障がい児通所施設の機能と保育士の職務について学ぶ。</td> <td>かつしか風の子クラブ、パオパオクラブ、品川区立かがやき園、向島学園、沼南育成園 等</td> </tr> <tr> <td>保育実習Ⅲ</td> <td>居宅型児童福祉施設及び障がい児通所施設の機能と保育士の職務について学ぶ。</td> <td>かつしか風の子クラブ、パオパオクラブ、今戸児童館、サンライズ青山、玉姫児童館 等</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教育実習Ⅰ</td> <td>幼稚園の生活内容の概要を知り、どのような活動がどのような方法で行われているか積極的に学ぶ。</td> <td>江東幼稚園、篠崎若葉幼稚園、江戸川幼稚園、宇喜田幼稚園、船橋ひかり幼稚園、西小岩幼稚園、三愛幼稚園、若葉台幼稚園 等</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教育実習Ⅱ</td> <td>前回の実習を基礎として、部分実習や責任実習を行ったり、家庭との連携の内容や方法を理解する。</td> <td>西船幼稚園、上平井幼稚園、葛西めぐみ幼稚園、杉並幼稚園、なかの幼稚園、新検見川幼稚園、土気中央幼稚園、神田寺幼稚園 等</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	保育実習Ⅰ	子どもとの関わりや観察を通して子どもへの理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	葛西第二おひさま保育園、東葛西保育園、葛西おひさま保育園、北葛西おひさま保育園、ローゼンかみやま保育園 等	保育実習Ⅱ	居宅型児童福祉施設及び障がい児通所施設の機能と保育士の職務について学ぶ。	かつしか風の子クラブ、パオパオクラブ、品川区立かがやき園、向島学園、沼南育成園 等	保育実習Ⅲ	居宅型児童福祉施設及び障がい児通所施設の機能と保育士の職務について学ぶ。	かつしか風の子クラブ、パオパオクラブ、今戸児童館、サンライズ青山、玉姫児童館 等	幼稚園教育実習Ⅰ	幼稚園の生活内容の概要を知り、どのような活動がどのような方法で行われているか積極的に学ぶ。	江東幼稚園、篠崎若葉幼稚園、江戸川幼稚園、宇喜田幼稚園、船橋ひかり幼稚園、西小岩幼稚園、三愛幼稚園、若葉台幼稚園 等	幼稚園教育実習Ⅱ	前回の実習を基礎として、部分実習や責任実習を行ったり、家庭との連携の内容や方法を理解する。	西船幼稚園、上平井幼稚園、葛西めぐみ幼稚園、杉並幼稚園、なかの幼稚園、新検見川幼稚園、土気中央幼稚園、神田寺幼稚園 等																						
科目名	科目概要	連携企業等																																									
保育実習Ⅰ	子どもとの関わりや観察を通して子どもへの理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	葛西第二おひさま保育園、東葛西保育園、葛西おひさま保育園、北葛西おひさま保育園、ローゼンかみやま保育園 等																																									
保育実習Ⅱ	居宅型児童福祉施設及び障がい児通所施設の機能と保育士の職務について学ぶ。	かつしか風の子クラブ、パオパオクラブ、品川区立かがやき園、向島学園、沼南育成園 等																																									
保育実習Ⅲ	居宅型児童福祉施設及び障がい児通所施設の機能と保育士の職務について学ぶ。	かつしか風の子クラブ、パオパオクラブ、今戸児童館、サンライズ青山、玉姫児童館 等																																									
幼稚園教育実習Ⅰ	幼稚園の生活内容の概要を知り、どのような活動がどのような方法で行われているか積極的に学ぶ。	江東幼稚園、篠崎若葉幼稚園、江戸川幼稚園、宇喜田幼稚園、船橋ひかり幼稚園、西小岩幼稚園、三愛幼稚園、若葉台幼稚園 等																																									
幼稚園教育実習Ⅱ	前回の実習を基礎として、部分実習や責任実習を行ったり、家庭との連携の内容や方法を理解する。	西船幼稚園、上平井幼稚園、葛西めぐみ幼稚園、杉並幼稚園、なかの幼稚園、新検見川幼稚園、土気中央幼稚園、神田寺幼稚園 等																																									

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
教員研修規定により、授業内容・教育技法の改善、またクラス運営・マネジメント力を含んだ指導力の向上が、授業力の向上につながる研修を行うことを目的とする。さらに協会、職能団体が主催する研修や学会などの研修にも参加を促している。

(2)研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等
FDミクロ・ミドルレベル研修
近畿大学九州短期大学通信教育部事務連絡会
②指導力の修得・向上のための研修等
教職員カウンセリング研修
FDミクロレベル・ミドルレベル研修
フォローアップ研修

(3)研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
FDミクロ・ミドルレベル研修
近畿大学九州短期大学通信教育部事務連絡会
②指導力の修得・向上のための研修等
教職員カウンセリング研修
FDミクロレベル・ミドルレベル研修
フォローアップ研修

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営の理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とし、自己点検・評価の結果は学校法人滋慶学園情報公開規定に基づき学校内外に開示するものとする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	運営方針・事業計画・運営組織・人事・給与制度・意思決定システム
(3)教育活動	目標設定・教育方法・評価等・成績評価・単位認定など・資格・免許取得の指導体制
(4)学修成果	就職率・資格・免許の取得率・卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職進路・中途退学への対応・学生相談・学生生活・保護者との連携・卒業生・社会人
(6)教育環境	施設・設備等・学外実習・インターンシップ等・防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動・入学選考・学納金
(8)財務	財務基盤・予算・収支計画・監査・財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準等の遵守・個人情報保護・学校評価・教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献・ボランティア活動
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
福祉分野の学生募集が苦戦しているようだがどの様な対策をしているか？
⇒学校おもしろ化計画・仲間作り、という2大方針を掲げ学校改革を進めている。
入学前に何か取り組んでいるか？
⇒「勤労観・職業理解」を意識して入学前から動機付けできるようプログラムを試行錯誤しながら行っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
西田 憲司	特別養護老人ホーム きく 事務長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	卒業生代表
野沢 裕美子	こども保育福祉科 保護者	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	保護者代表
桜井 道夫	清新北ハイソ自治会 会長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	地域代表
高部 英彦	正則学園高等学校 教頭	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	高等学校代表
平方 俊雄	社会福祉法人東京栄和会 理事長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
大江 恵子	社会福祉法人清香会 統括団長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
皆川 隆太	就労移行支援事業所natura 管理者	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
内海 哲也	佐倉厚生園病院 作業療法士 主任	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
小林 和弘	東京福祉専門学校 学校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
古島 暉大	学校法人滋慶学園 常務理事	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
高橋 友深	東京福祉専門学校 事務局長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
館脇 康郎	東京福祉専門学校 教務部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
佐藤 祐子	東京福祉専門学校 ソーシャルワーク学部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
高橋 利明	東京福祉専門学校 ケアワーク学部 リーダー	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
福原 康久	東京福祉専門学校 リハビリテーション学部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
木村 早希	東京福祉専門学校 チャイルドケアワーク学部長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
奥村 文司	東京福祉専門学校 学生サービスセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	
高野 大輔	東京福祉専門学校 キャリアセンター長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() URL://www.tcw.ac.jp/	
5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係 (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 学生・保護者・卒業生・地域住民・福祉業界関係者など、学校と関係者の理解を深め、連携・協力するとともに、教育活動やその他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する。	
(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の沿革 ・学校長挨拶 ・教育目標 ・教育システム
(2)各学科等の教育	・設置学科(修業年限、入学定員、養成目的) ・教育目標 ・教育システム ・取得目標資格 ・卒業後の進路
(3)教職員	教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育の取り組み ・就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	・教育関連イベント ・学校設備状況 ・特色のある教育活動
(6)学生の生活支援	・学生相談室 ・学生サービスセンター ・留学生
(7)学生納付金・修学支援	・授業及び他経費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・監査報告書 ・貸借対照表 ・収支計算書
(9)学校評価	・学校関係者評価委員会報告書 ・自己点検・自己評価
(10)国際連携の状況	・海外研修
(11)その他	・その他の学校の取り組み
※(10)及び(11)については任意記載。 (3)情報提供方法 URL://www.tcw.ac.jp/	

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 こども保育福祉科(昼間部)) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プロ養成講座 I・II・III	専門職業人として必要な能力、判断力を養い、プロとしての自覚を身に付ける。	全通	150	10	○			○				
○			情報処理入門	パソコンの基本操作や用語を理解し、ワード・エクセルなどソフト利用の基礎や、図形の挿入などを学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			英会話	日常の会話を英語でも楽しむことが出来るように、聴覚教材などを使いながら、発音を学び、会話を声にしてみる。	2前	60	2		○		○			○	
○			日本国憲法	社会の最小単位の家族とそれに関する法律を理解しながら、憲法に対する自らのリーガルマインドを養う。	2前	30	2	○			○			○	
○			表現演習	保育者として必要な文章表現方法について学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			音楽 I・II	音楽基礎となる楽譜、音譜、リズムを学び、主にピアノ技術を学ぶ。	通12	210	7		○		○			○	
○			表現 I・II	体を通して感じた事、思った事、考えた事などを動きで様々な表現が出来るよう、指導援助法を学ぶ。	32後通	150	5	△	○		○			○	
○			図画	子どもの発達と造形表現に関する知識と技術を習得し、教材等の活用や作成、保育環境構成を学ぶ。	1通	60	2		○		○			○	
○			レクリエーション	レクリエーションの基本概念をおさえ、健全育成について学び、基本的指導技術を演習形式で習得する	1前	30	1		○		○			○	
○			カウンセリング	保育者に必要なカウンセリング技術を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			教育原理	教育の意義、目的及び児童福祉等のかかわりについて学び、教育の制度について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			保育者の常識とマナー	保育業界で求められる常識とマナーを学び、対人援助職としての基本的な姿勢を身につける	1前	15	1	○			○			○	
○			こどもの発達と遊び	年齢ごとの発達と、発達に合わせた遊びを学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			教育方法論	幼稚園・保育所における「保育指導」(援助)とは何かについて考え、発達段階に即した指導を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			保育内容	保育内容の方法を学び、創作活動を適切に指導する指導力と場面に応じて行える技術を身に付ける。	1後	60	2		○		○			○	
○			教育課程総論	子どもの実態の即した教育課程とは何かを念頭に置き、教育・保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。	1後	30	2	○			○			○	
○			教職概論	保育者の役割と倫理について学び、保育士・幼稚園教諭の専門性について考察し理解する。	1後	30	2	○			○			○	
○			乳幼児心理学	乳幼児期の子どもの心理的・身体的特徴について学び、乳幼児期における人格発達を多様な側面から理解する。	1前	15	1	○			○			○	
○			乳児保育	3歳児未満児の発達・育児について学び、保育の内容や方法環境構成や観察記録等について学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	
○			保育原理	保育の意義について理解する。保育の内容と方法の基本について理解する。	2前	30	2	○			○			○	

○		児童家庭福祉	児童家庭福祉の意義と歴史の変遷や、現状と課題について理解する。	2 前	30	2	○			○			○	
○		障害児保育	様々な障がいについて理解し、保育における発達の援助・環境構成について学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○	
○		子どもの保健 I・II・III	子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。	3 2 前後	90	5	○	△		○			○	
○		発達心理学	子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、こどもへの理解を深める。	3 後	30	2	○			○			○	
○		家族支援論	家庭の意義とその機能について理解し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援体制について学ぶ。	3 後	30	2	○			○			○	
	○	選択音楽	保育者として必要な音楽の技術を学ぶ。	3 前	60	2			○	○			○	
○		実習ゼミI・ II・III・IV	保育計画・指導案・実習日誌の書き方等、実習に必要な知識と技術を学ぶ。	前1 3 後 前2	90	3			○	○			○	
○		こども教室・ひろば I・II	幼児期における発育・発達に応じた指導技術を実践する。	2 1 通 通	318	7			○	○			○	○
○		実習前後教育 I・II・III	保育実習の意義・目的を理解する。実習の計画、実践、観察、記録評価の方法や内容について学ぶ。	3 1 前 2 後	120	4			○	○			○	○
○		保育実習 I	子どもとの関わりや観察を通して子どもへの理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	2 後	90	2			○		○	○	○	○
○		保育実習 II	居宅型児童福祉施設及び障がい児通所施設の機能と保育士の職務について学ぶ。	2 後	90	2			○		○	○	○	○
○		保育実習 III	居宅型児童福祉施設及び障がい児通所施設の機能と保育士の職務について学ぶ。	3 前	90	2			○		○	○	○	○
	○	卒業研究	3年間の総まとめとして自らテーマを設定し、グループ単位で研究・調査・発表を行い、個人論文を作成する。	3 通	184	6			○	○			○	○
○		造形表現(指導法)	子どもの発達と造形表現に関する知識と技術を習得し、教材等の活用や作成、保育環境構成を学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○		教育心理学	生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		人間関係(指導法)	子どもが他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て人とかかわる力を養う方法を学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○		生涯スポーツ	生涯スポーツの理念・歴史・問題について学び、体育・スポーツの展開の過程と特徴を理解する。	1 後	30	1			○	○			○	
○		健康(指導法)	子どもが健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う方法を理解する。	1 後	15	1	○			○			○	
○		言葉(表現法)	子どもが経験した事や考えた事を自分の言葉で表現するための方法を学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○		劇あそび(指導法)	感じたこと、思ったこと、考えたことなどを動きで表現できるよう、指導援助法を学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	

○		音楽表現(指導法)	子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びへの展開の技術を習得する。	1後	30	1	○			○								
○		音楽①・②	音楽基礎となる楽譜、音譜、リズムを学び、主にピアノ技術を学ぶ。	21後後	60	2		○		○								
○		環境(指導法)	子どもが健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う方法を理解する。	1後	15	1	○			○								
○		教育実習事前事後指導	教育実習の意義・目的を理解し、実習の計画、実践、観察、記録評価の方法や内容について学ぶ。	1後	15	1	○			○				○	○			
○		保育実習事前事後指導Ⅰ・Ⅱ	保育実習の意義・目的を理解する。実習の計画、実践、観察、記録評価の方法や内容について学ぶ。	32前	30	2	○			○				○	○			
○		図画工作	子どもの発達と造形表現に関する知識と技術を習得し、教材等の活用や作成、保育環境構成を学ぶ。	2前	30	1		○		○								
○		社会的養護内容	児童養護のプログラム・処遇の実際を学ぶ。	2前	15	1	○			○								
○		保育内容総論	保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解をし、保育の多様な展開について学ぶ。	2前	15	1	○			○								
○		子どもの食と栄養	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。	2後	30	2	○			○								
○		幼児体育	乳幼児期の子どもの運動発達を理解し、運動遊びに関する保育の展開方法を実技を通して学ぶ。	2後	30	1		○		○								
○		相談援助	相談援助の概要について学び、方法と技術について理解する。	3後	15	1	○			○								
○		保育相談支援	保育における相談の位置づけと意義を理解し、家庭を支援する方法について学ぶ。	3後	15	1	○			○								
○		言語表現	子どもの発達と絵本、紙芝居等に関する知識と技術を学び、表現活動に係る教材等の作成をする。	3後	15	1	○			○								
○		保育・教育実践演習	子どもに関わる課題の分析、考察、検討から、これまでの学習を振り返り現場に必要な知識の修得確認。	3後	30	1		○		○								
	○	幼稚園教育実習Ⅰ	幼稚園の生活内容の概要を知り、どのような活動がどのような方法で行われているか積極的に学ぶ。	1後	90	2			○		○	○	○	○	○			
	○	幼稚園教育実習Ⅱ	前回の実習を基礎として、部分実習や責任実習を行ったり、家庭との連携の内容や方法を理解する。	3前	90	2			○		○	○	○	○	○			
○		国際教育	海外の保育・幼児教育について学ぶとともに、国際的な広い視野を養う。	3後	45	1		○				○	○					
	○	知育研究	学研の知育教材について、実際の保育・幼児教育現場での活用を学ぶ。	1後	15	1	○			○								
○		卒業研究概論	現場で経験したことをもとに問題解決の手法を学ぶ。	2後	30	1		○		○								
合計				59科目				3037時間(123単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目をすべて履修し、各科目においてC評価(60点以上)かつ授業時間数の10分の7以上の出席を要する(実習科目の出席時間数は5分の4とする)。実習以外の科目については前期、後期において各2回評価をおこなう。(必修科目54科目、2598時間、110単位)	1学年の学期区分		2期
	1学期の授業期間		15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。